

7月になりました。2019年も あっという間に半分が過ぎ 下半期に入りました。先月の1か月間は、7日のペンテコステ礼拝から始まって 花の日こどもの日礼拝、卒園生達のための同窓会、保護者の皆様に御協力を頂いた2週間に亘る保育参加、そして先週末の『保育園をピカピカにしよう！』と行事が続いた印象がありますがその度に、各クラスの担任を始め 給食のスタッフ達も加わり、話し合いを重ねつついろいろと悩み 考えながら、皆で 励まし 祈り合い、一生懸命 準備をしてきました。保育園、幼稚園、子ども園などの保育現場における“行事”に対する目標や ねらい それについての考え方や 取り組み方は、各園の 理念や方針、保育観に基づくものですので、それぞれに特徴があり 方法も様々です。けれども“行事”というものを日々の保育の中で取り上げる時に、私共 保育者や 保護者の方々、周りの大人達が何よりも意識しなければならないのは、行事は 日々の保育（子どもの成長発達）の通過点であること、行事の当日が ゴール（結果）ではなく すべてではないのだということです。私達が生きている この人生は、毎日毎日が同じように廻って来てても毎日毎日は 絶対に同じではない、それと同じように、1年1年の歩みも同様です。つのがえ保育園の保育は その「生きること」をどんな時も大切な観点としています。毎年度当初に 年間の予定を立案する職員会の場で、私が 必ず 先生達に伝えるのは 「行事も 活動も“去年（今まで）やったから、今年も やらなければならない” というものではない。子ども達のメンバーも 人数も 性格も 成長の度合いも 個性も、それぞれに異なっているし、先生達自身についても、担任も クラスも、すべてが去年と今年では 全く違うのだから、“去年 やったけど、今年はどうだろうか”とゼロベースにするべき。その上で 今年子ども達にとって、最適最善の ねらいを考え、それに相応しい内容や 日程や期間、方法を決めていかなければ 意味はない。」ということです。1年1年、その年度の子ども達1人1人の姿、笑顔を想いながら毎年恒例の行事と考えるのではなく、子ども達に経験させたいこと、必要な活動を計画することが大切です。そう とらえれば、去年と同じことは出来ないと思います。そして もう一つ、私達人間が生きる上で 大切なのは“結果”ではなく“プロセス”だということです。大人は、たった1日の 行事当日を“披露の場”と考えがちです。けれども、乳幼児期の子ども達にとって 必要なことは“体験すること”なのです。そして 更にそれを“経験”へと変えていくことです。中でも必要なのは“失敗する”“間違える”こと。『失敗は この方法が違ったことがわかったという発見である』というドイツの物理学者 アインシュタインの言葉の通り、子ども達の たくさんの失敗や間違いは、たくさんの発見や気づきに変えられると共に、自分自身を信じて乗り越える力を養う 素晴らしいチャンスです。“体験を経験に変える”とは、その実践を通して感じたり考えたりした様々な感情や想いを 子どもの知識や自信へと繋げることです。私達保育者は、1人1人の子ども達のプロセスを 大切に受け留めそれぞれのまなざしに 丁寧に寄り添いながら、共に歩んで行きたいと思っています。毎年毎年 それぞれにふさわしい形で 子ども達の成長や発達段階、何よりも個性を尊重しながら 保育者も 保護者も 子ども達と一緒に 皆が 分かち合い 楽しみ合う 行事を行っていきたいと思っています。今回の「ぴかぴかにしよう！」は まさしくその想いが表れていて、今年度のメンバーにぴったりの活動になったと思いました。役員の方々を始め 皆様の 温かな御協力、御理解を 職員一同 心から感謝致します。「互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。(ヨハネⅠ 4:7)」(石田 記)